

教育文化の向上施策については都留市が文教都市を指向し、また城下町として発達してきた、古い歴史を持つまちでありますので、もっとも大きな課題であります。義務教育施設整備は順調に進展しており、学校整備計画の通り、昭和六十年までには全小中学校の校舎、体育館、プールなどの整備を完成したいと念願しております。

社会教育については、現下の中学校生徒などの非行防止、健全育成の重要性にかんがみ、学校教育と社会教育との連携を密にするとともに、青少年の人間形成の重要な部分を占める家庭教育のあり方を重点的に究明しなければなりません。

教育界に大きく貢献している都留文科大学は、着々と整備され、そのシンボルともなる本部棟も完成し、年次計画により、特別教室、プール、音楽教室、講堂など附属施設の整備を進めます。

市民に開かれ、市民との密接な交流を進める大学を柱として、名実ともに全国に誇りうる学園のまちをめざします。

六十一年山梨国体には、当市は



バスケットボール、軟式野球の会場となりますが、国体の受入れ体制として、また文科大学一帯の総合的な環境整備の一環として、野球場、体育館などを建設するとともに、幅広い防災治山事業を導入します。

農林業の振興施策については、当市が農林業地帯でありますので、その基盤整備は着々と進められています。

農村総合整備モデル事業を中心に、各種施策を積極的に進めておりますが、山村振興対策事業、新しい村づくり事業、新農業構造改善事業などを強く推進します。

生活改善センターと公民館は、昨年から盛里地区に建設しておりますが、市内各所に農村公園、防火水槽を順次設けるとともに、農道の整備を積極的に進めております。

林業は、集団間伐事業を効果的に進めるとともに、新林業構造改善事業を導入して、林業の経営合理化、林道整備を促進します。

地域づくり、人づくりを進め、農地の保全、有効な土地利用の推進を図り、住みよい農村地域を形成します。

商工業の振興施策については、現在ももっとも肝要なのは、業界の自助努力であり、加えて関係機関の適切な指導による技術の向上、企業の体質改善であります。

繊維産業については、伝統的な

絹人織物産地でありながら、低迷していますが、技術開発、有効な設備投資を進めるとともに、新規需要の喚起、販路拡張を促進して、産地としての将来の展望をきわめなければなりません。

機械金属工業は、着実に発展しその製品出荷額は、市産業界の中心的存在となっておりすが、なお設備の近代化、企業間の下請幹旋の円滑化など、振興策の余地は多くあります。

商業面については、大型店進出を迎えて、業界の近代化対策など業者自らの革新と、地域に密着した商法を編み出す必要があります。

商工業界の共存共栄と研鑽の場として、産業会館の建設を検討してまいります。建設委員会を設けて計画を樹立します。

なお、本年は市役所の機構の中に商工課を新設して、活気ある産業のまちづくりの一端を担っていきます。

以上、年頭にあたり抱負を申しあげましたが、長期総合計画の通り、この中であらゆる施策を十分吟味し、昭和六十年における市勢の望ましい水準を明らかにして、これに到達するため、万全を期したいと考えます。

都留市にとって、一九八〇年代は飛躍の時代となるよう全力をあげて取り組むことをお誓いし、皆様のあたたかいご支援ご協力をお願いして、新年のごあいさついたします。

歳時記 初もうで

「せっかくの初もうでだから、おさい銭は千円のもりだつたが、大混雑でさい銭箱まで近づけず、お札を投げて届かないから、百円玉を高く投げてきた」



——とは、ある初もうで客の話。昨年一月一日〜四日間の初もうで客は、全国で約七千万人と前年に比べて約四百六十万人も多く、史上最高を記録しました。これは、国民十人のうち六人が初もうでをした勘定になります（警察庁調べ）。もっとも、このところ各地で七福神もうでに人気が出てきているので、一人で七か所回った人もいろいろありますが……。

初もうでは、正月にその年初めて神社やお寺に参詣することですが、昔は、恵方（えほう）まいりとか恵方もうでと言つてその年の「吉の方角」にある神社仏閣にお参りすることが多かったようです。

恵方とは、中国から伝わった

十干十二支の思想に根ざすもので、その年の干支（えと）によつて吉の方と決められた方角を言います。そこで、その方角から幸運がくる、つまり歳徳神（としとくじん）が訪れてくると信じられていました。こうしたことから、その年の「吉の方角」にある社寺にお参りして、その年の福徳を祈ったのです。

しかし、最近では、交通の便が優先し、とりわけ都会に住む人たちは、終夜運転をしている沿線の神社やお寺に人気があるようです。また、マイカーで出かけて、初日の出を拝んでから参詣するという人も増えているようです。

それはともかく、ことしも良い年でありますように——。